

ウガンダとケニアで過ごした子供時代、唯一の白人として「区別」された経験を持つドイツ人の著者の描く、モザンビークからかつての東独へやってきた移民たちのこの物語は、シンボリックな絵とときに詩のような言葉で読者の心に食いこむ。母国でも居住国でも自分をよそ者と感じ、「文化のはざまでゆらめく」人たちの声が聞こえてくる。

(グラフィックノベル)

**小竹由美子** 翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**小竹由美子**さん

翻訳家

アリス・マンロー、ジョン・アーヴィング、ジム・シェパードなど、英語圏作家の作品を翻訳しています。

「マッドジャーマンズ  
ドイツ移民物語」  
ビルギット・ヴァイエ 著  
山口侑紀 訳  
花伝社

ウガンダとケニアで過ごした子供時代、唯一の白人として「区別」された経験を持つドイツ人の著者の描く、モザンビークからかつての東独へやってきた移民たちのこの物語は、シンボリックな絵とときに詩のような言葉で読者の心に食いこむ。母国でも居住国でも自分をよそ者と感じ、「文化のはざまでゆらめく」人たちの声が聞こえてくる。

(グラフィックノベル)

**小竹由美子** 翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**小竹由美子**さん

翻訳家

アリス・マンロー、ジョン・アーヴィング、ジム・シェパードなど、英語圏作家の作品を翻訳しています。

「マッドジャーマンズ  
ドイツ移民物語」  
ビルギット・ヴァイエ 著  
山口侑紀 訳  
花伝社

ウガンダとケニアで過ごした子供時代、唯一の白人として「区別」された経験を持つドイツ人の著者の描く、モザンビークからかつての東独へやってきた移民たちのこの物語は、シンボリックな絵とときに詩のような言葉で読者の心に食いこむ。母国でも居住国でも自分をよそ者と感じ、「文化のはざまでゆらめく」人たちの声が聞こえてくる。

(グラフィックノベル)

**小竹由美子** 翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**小竹由美子**さん

翻訳家

アリス・マンロー、ジョン・アーヴィング、ジム・シェパードなど、英語圏作家の作品を翻訳しています。

「マッドジャーマンズ  
ドイツ移民物語」  
ビルギット・ヴァイエ 著  
山口侑紀 訳  
花伝社

「いじめられるより、いっそ、いじめる側になっちゃったほうが『まし』なんじゃないか……」ヒトラーの山荘で暮らすことになった少年は、しだいに独裁者に心酔していきます。人は弱い者に寄り添い、正しいことをし続けるより、強い者を賛美し、その力を借りたほうが楽なのです。でも、それでいいのだろうか？ 今、私たち日本人こそ読むべき物語！（YAだけど大人にも！／心理／歴史）

**原田勝** 翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**原田勝**さん  
翻訳家

児童書・YAを中心に翻訳。訳書に『オオカミを森へ』（キャサリン・ランデル、小峰書店）、『ペーパーボーイ』（ヴィンス・ヴォーター、岩波書店）、『ハーレムの闘う本屋』（ヴォーンダ・ミショー・ネルソン、あすなる書房）、『真夜中の電話』（ロバート・ウェストール、徳間書店）など。

「ヒトラーと暮らした少年」  
ジョン・ポイン 著  
原田勝 訳  
あすなる書房

「いじめられるより、いっそ、いじめる側になっちゃったほうが『まし』なんじゃないか……」ヒトラーの山荘で暮らすことになった少年は、しだいに独裁者に心酔していきます。人は弱い者に寄り添い、正しいことをし続けるより、強い者を賛美し、その力を借りたほうが楽なのです。でも、それでいいのだろうか？ 今、私たち日本人こそ読むべき物語！（YAだけど大人にも！／心理／歴史）

**原田勝** 翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**原田勝**さん  
翻訳家

児童書・YAを中心に翻訳。訳書に『オオカミを森へ』（キャサリン・ランデル、小峰書店）、『ペーパーボーイ』（ヴィンス・ヴォーター、岩波書店）、『ハーレムの闘う本屋』（ヴォーンダ・ミショー・ネルソン、あすなる書房）、『真夜中の電話』（ロバート・ウェストール、徳間書店）など。

「ヒトラーと暮らした少年」  
ジョン・ポイン 著  
原田勝 訳  
あすなる書房

「いじめられるより、いっそ、いじめる側になっちゃったほうが『まし』なんじゃないか……」ヒトラーの山荘で暮らすことになった少年は、しだいに独裁者に心酔していきます。人は弱い者に寄り添い、正しいことをし続けるより、強い者を賛美し、その力を借りたほうが楽なのです。でも、それでいいのだろうか？ 今、私たち日本人こそ読むべき物語！（YAだけど大人にも！／心理／歴史）

**原田勝** 翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**原田勝**さん  
翻訳家

児童書・YAを中心に翻訳。訳書に『オオカミを森へ』（キャサリン・ランデル、小峰書店）、『ペーパーボーイ』（ヴィンス・ヴォーター、岩波書店）、『ハーレムの闘う本屋』（ヴォーンダ・ミショー・ネルソン、あすなる書房）、『真夜中の電話』（ロバート・ウェストール、徳間書店）など。

「ヒトラーと暮らした少年」  
ジョン・ポイン 著  
原田勝 訳  
あすなる書房

訳すために、何度読みなおしても、最後のところで泣いてしまいます。でも、悲しい涙ではなく、すがすがしい涙。そして、「世界っていいなあ」と思うのです。大好きな本です。

(少女／自立／社会問題／冒険)

**伏見操** 英語・フランス語児童書翻訳者



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**伏見操**さん

英語・フランス語児童書翻訳者

1970年埼玉県生まれ。雑誌「暮しの手帖」でエッセイを連載。黄色いページのイニシャルFがわたしです。

「バイバイ、わたしの9さい！」  
ヴァレリー・ゼナッティ 著  
伏見操 訳  
文研出版

訳すために、何度読みなおしても、最後のところで泣いてしまいます。でも、悲しい涙ではなく、すがすがしい涙。そして、「世界っていいなあ」と思うのです。大好きな本です。

(少女／自立／社会問題／冒険)

**伏見操** 英語・フランス語児童書翻訳者



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**伏見操**さん

英語・フランス語児童書翻訳者

1970年埼玉県生まれ。雑誌「暮しの手帖」でエッセイを連載。黄色いページのイニシャルFがわたしです。

「バイバイ、わたしの9さい！」  
ヴァレリー・ゼナッティ 著  
伏見操 訳  
文研出版

訳すために、何度読みなおしても、最後のところで泣いてしまいます。でも、悲しい涙ではなく、すがすがしい涙。そして、「世界っていいなあ」と思うのです。大好きな本です。

(少女／自立／社会問題／冒険)

**伏見操** 英語・フランス語児童書翻訳者



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**伏見操**さん

英語・フランス語児童書翻訳者

1970年埼玉県生まれ。雑誌「暮しの手帖」でエッセイを連載。黄色いページのイニシャルFがわたしです。

「バイバイ、わたしの9さい！」  
ヴァレリー・ゼナッティ 著  
伏見操 訳  
文研出版

蜜蜂がつなく、過去、現代、未来の三つの家族の物語。謎また謎のストーリーに、一気に引き込まれます。心を通わせあえない夫婦、親子のリアルな関係に胸を刺されつつ、やがて「ああ、そこか！」という驚きの結末へ……。苦難続きの人生でも、思いがけない方向から光が射すこともある。そんなことに気づかせてくれる一冊です。

(一般小説／歴史)

**布施由紀子** 出版翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**布施由紀子**さん

出版翻訳家

訳書に、「ブッチャーズ・クロッシング」(ジョン・ウィリアムズ、作品社)、「核は暴走する アメリカ核開発と安全性をめぐる闘い」(エリック・シュローサー、河出書房新社)、「1493 世界を変えた大陸間の「交換」」(チャールズ・C・マン、紀伊國屋書店)、「天国の扉をたたくとき 穏やかな最期のためにわたしたちができること」(ケイティ・バトラー、垂紀書房)など。

「蜜蜂」  
マヤ・ルンデ 著  
池田真紀子 訳  
NHK出版

蜜蜂がつなく、過去、現代、未来の三つの家族の物語。謎また謎のストーリーに、一気に引き込まれます。心を通わせあえない夫婦、親子のリアルな関係に胸を刺されつつ、やがて「ああ、そこか！」という驚きの結末へ……。苦難続きの人生でも、思いがけない方向から光が射すこともある。そんなことに気づかせてくれる一冊です。

(一般小説／歴史)

**布施由紀子** 出版翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**布施由紀子**さん

出版翻訳家

訳書に、「ブッチャーズ・クロッシング」(ジョン・ウィリアムズ、作品社)、「核は暴走する アメリカ核開発と安全性をめぐる闘い」(エリック・シュローサー、河出書房新社)、「1493 世界を変えた大陸間の「交換」」(チャールズ・C・マン、紀伊國屋書店)、「天国の扉をたたくとき 穏やかな最期のためにわたしたちができること」(ケイティ・バトラー、垂紀書房)など。

「蜜蜂」  
マヤ・ルンデ 著  
池田真紀子 訳  
NHK出版

蜜蜂がつなく、過去、現代、未来の三つの家族の物語。謎また謎のストーリーに、一気に引き込まれます。心を通わせあえない夫婦、親子のリアルな関係に胸を刺されつつ、やがて「ああ、そこか！」という驚きの結末へ……。苦難続きの人生でも、思いがけない方向から光が射すこともある。そんなことに気づかせてくれる一冊です。

(一般小説／歴史)

**布施由紀子** 出版翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**布施由紀子**さん

出版翻訳家

訳書に、「ブッチャーズ・クロッシング」(ジョン・ウィリアムズ、作品社)、「核は暴走する アメリカ核開発と安全性をめぐる闘い」(エリック・シュローサー、河出書房新社)、「1493 世界を変えた大陸間の「交換」」(チャールズ・C・マン、紀伊國屋書店)、「天国の扉をたたくとき 穏やかな最期のためにわたしたちができること」(ケイティ・バトラー、垂紀書房)など。

「蜜蜂」  
マヤ・ルンデ 著  
池田真紀子 訳  
NHK出版

ドイツ占領下のポーランドに生まれたマイケルは、わずか4歳でアウシュビッツ強制収容所に送られたが、からくも半年後に生還できた。その理由は何だったのか？ 事実在即した物語ではあるものの、登場人物の会話や心情などはフィクションで、文学とも言える。家族の絆や、希望を持ち続けることの大切さを教えてくれる作品だ。

(歴史／戦争／ナチス)

**吉澤康子** 英米文学翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**吉澤康子**さん

英米文学翻訳家

主な訳書は、『コードネーム・ヴェリティ』（エリザベス・ウェイン、東京創元社）、『ケチャップ・シンドローム』（アナベル・ピッチャー、早川書房）など。

「4歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから生還した」  
マイケル・ボーンスタイン&デビー・ボーンスタイン・ホリンスタート 著  
森内薫 訳  
NHK出版

ドイツ占領下のポーランドに生まれたマイケルは、わずか4歳でアウシュビッツ強制収容所に送られたが、からくも半年後に生還できた。その理由は何だったのか？ 事実在即した物語ではあるものの、登場人物の会話や心情などはフィクションで、文学とも言える。家族の絆や、希望を持ち続けることの大切さを教えてくれる作品だ。

(歴史／戦争／ナチス)

**吉澤康子** 英米文学翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**吉澤康子**さん

英米文学翻訳家

主な訳書は、『コードネーム・ヴェリティ』（エリザベス・ウェイン、東京創元社）、『ケチャップ・シンドローム』（アナベル・ピッチャー、早川書房）など。

「4歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから生還した」  
マイケル・ボーンスタイン&デビー・ボーンスタイン・ホリンスタート 著  
森内薫 訳  
NHK出版

ドイツ占領下のポーランドに生まれたマイケルは、わずか4歳でアウシュビッツ強制収容所に送られたが、からくも半年後に生還できた。その理由は何だったのか？ 事実在即した物語ではあるものの、登場人物の会話や心情などはフィクションで、文学とも言える。家族の絆や、希望を持ち続けることの大切さを教えてくれる作品だ。

(歴史／戦争／ナチス)

**吉澤康子** 英米文学翻訳家



Vol.4

はじめての海外文学



**推薦者**

**吉澤康子**さん

英米文学翻訳家

主な訳書は、『コードネーム・ヴェリティ』（エリザベス・ウェイン、東京創元社）、『ケチャップ・シンドローム』（アナベル・ピッチャー、早川書房）など。

「4歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから生還した」  
マイケル・ボーンスタイン&デビー・ボーンスタイン・ホリンスタート 著  
森内薫 訳  
NHK出版